(その三)

工場又は事業場の名称	株式会社 荏原製作所 富津事業所

（２）揮発性有機化合物の排出等の抑制のための対策

（１）の計画年度の削減率を達成するために実施した対策について、自主的取組計画書の別表から該当する記号を選んで記載すること。複数の対策を組み合わせて実施した場合は、全ての対策について記載すること。

対策 1	対策 2	対策 3	対策 4	対策 5	対策 6	対策 7	対策 8	対策 9	対策10
1 1	1 2	2 1	2 9	3 9	9 9				

その他（１９，２９，３９，４９，５９，９９）を選んで記載した場合は、対策の内容を次の欄に具体的に記入すること。

1. 塗料対策(11、12)
低VOC塗料：選定、標準化、客先への提案、実機への適用
2. 溶剤対策：蓋閉めの徹底(21)
3. 洗浄剤対策
洗浄方法の工夫・変更(29)、高圧蒸気洗浄の使用頻度向上(29)
洗浄工程の廃止(29)：防錆方法の変更
4. その他の対策
廃棄物管理(99)：残液の回収、残液のVOC含有量の算出
塗料庫の入出庫管理の徹底(99)、ｴｱﾗｯﾌﾟｶﾞﾝの使用(39)

（その四）

工場又は事業場の名称	株式会社 荏原製作所 富津事業所

(3) 自主的取組実績の評価

ア　(1)の計画年度における削減率についての進捗状況及び達成状況の評価

評価	計画年度の属する年度		
	平成２１年度以前	平成２２年度	平成２３年度以降
(A)	目標年度の目標達成に向けて順調に進んでいる。	削減目標を達成できた。	計画年度の目標を達成できた。
B	目標年度の目標達成に向けて概ね順調に進んでいる（一部に課題がある。）。	削減目標を概ね達成できた（一部に課題がある。）。	計画年度の目標を概ね達成できた（一部に課題がある。）。
C	目標年度の目標の達成に困難な課題がある。	削減目標の達成に困難な課題がある。	計画年度の目標の達成に困難な課題がある。

備考　評価の欄は、該当するものを○で囲むこと。

イ

課題と対策

備考　この項の記載は任意であること。ただし、アの評価の欄がＣの場合は、必ず記載すること。

(その三)

工場又は事業場の名称	日鉄エポキシ製造株式会社 千葉工場

（２）揮発性有機化合物の排出等の抑制のための対策

（１）の計画年度の削減率を達成するために実施した対策について、自主的取組計画書の別表から該当する記号を選んで記載すること。複数の対策を組み合わせて実施した場合は、全ての対策について記載すること。

対策 1	対策 2	対策 3	対策 4	対策 5	対策 6	対策 7	対策 8	対策 9	対策10
3 2	2 9	5 3							

その他（１９，２９，３９，４９，５９，９９）を選んで記載した場合は、対策の内容を次の欄に具体的に記入すること。

基本的に既設は、下記の内容を採用した設備となっております。

① 常温より高い温度の溶剤排気ガス系統に対しては、凝縮ｺﾝﾃﾞﾝｻｰと、低温冷媒を通水したｱﾌﾀｰｸｰﾗｰを設置し、大気への溶剤排出を防止しています。

② 凝縮ｺﾝﾃﾞﾝｻｰの水量の適正化により、大気への溶剤排出量の削減を図っています

③ 冷却塔のファンの稼働を負荷状況により適切に調節している。

（その四）

工場又は事業場の名称	日鉄エポキシ製造株式会社 千葉工場

(3) 自主的取組実績の評価

ア　(1)の計画年度における削減率についての進捗状況及び達成状況の評価

評価	計画年度の属する年度		
	平成２１年度以前	平成２２年度	平成２３年度以降
Ⓐ	目標年度の目標達成に向けて順調に進んでいる。	削減目標を達成できた。	計画年度の目標を達成できた。
B	目標年度の目標達成に向けて概ね順調に進んでいる（一部に課題がある。）。	削減目標を概ね達成できた（一部に課題がある。）。	計画年度の目標を概ね達成できた（一部に課題がある。）。
C	目標年度の目標の達成に困難な課題がある。	削減目標の達成に困難な課題がある。	計画年度の目標の達成に困難な課題がある。

備考　評価の欄は、該当するものを○で囲むこと。

イ　課題と対策

生産量の減少に伴い排出量も低下している。生産量の回復による影響の抑制を検討する。

気候変動による夏季の温度上昇については、影響を抑制するため継続的に対策を検討する。

備考　この項の記載は任意であること。ただし、アの評価の欄がＣの場合は、必ず記載すること。

（その三）

工場又は事業場の名称	日鉄機能材製造株式会社 木更津エスパネックス工場

（２）揮発性有機化合物の排出等の抑制のための対策

（１）の計画年度の削減率を達成するために実施した対策について、自主的取組計画書の別表から該当する記号を選んで記載すること。複数の対策を組み合わせて実施した場合は、全ての対策について記載すること。

対策 1	対策 2	対策 3	対策 4	対策 5	対策 6	対策 7	対策 8	対策 9	対策10
2 ： 1	3 ： 1	3 ： 4	5 ： 2	5 ： 4	9 ： 1	：	：	：	：

その他（１９，２９，３９，４９，５９，９９）を選んで記載した場合は、対策の内容を次の欄に具体的に記入すること。

（その四）

工場又は事業場の名称	日鉄機能材製造株式会社 木更津エスパネックス工場

(3) 自主的取組実績の評価

ア　(1)の計画年度における削減率についての進捗状況及び達成状況の評価

評価	計画年度の属する年度		
	平成２１年度以前	平成２２年度	平成２３年度以降
A	目標年度の目標達成に向けて順調に進んでいる。	削減目標を達成できた。	計画年度の目標を達成できた。
B	目標年度の目標達成に向けて概ね順調に進んでいる（一部に課題がある。）。	削減目標を概ね達成できた（一部に課題がある。）。	計画年度の目標を概ね達成できた（一部に課題がある。）。
C	目標年度の目標の達成に困難な課題がある。	削減目標の達成に困難な課題がある。	計画年度の目標の達成に困難な課題がある。

備考　評価の欄は、該当するものを○で囲むこと。

イ　課題と対策

備考　この項の記載は任意であること。ただし、アの評価の欄がＣの場合は、必ず記載すること。

5　計画年度の削減率の実績値は、次の式により算出される数値を有効数字２桁で記載すること。

｛（基準年度の排出等の量－計画年度の排出等の量）／基準年度の排出等の量｝×１００

(その三)

工場又は事業場の名称	広栄化学株式会社 千葉工場

（２）揮発性有機化合物の排出等の抑制のための対策

（１）の計画年度の削減率を達成するために実施した対策について、自主的取組計画書の別表から該当する記号を選んで記載すること。複数の対策を組み合わせて実施した場合は、全ての対策について記載すること。

対策 1	対策 2	対策 3	対策 4	対策 5	対策 6	対策 7	対策 8	対策 9	対策10
5　2	5　4								

その他（１９，２９，３９，４９，５９，９９）を選んで記載した場合は、対策の内容を次の欄に具体的に記入すること。

（その四）

工場又は事業場の名称	広栄化学株式会社 千葉工場

(3) 自主的取組実績の評価

ア　(1) の計画年度における削減率についての進捗状況及び達成状況の評価

評価	計画年度の属する年度		
	平成２１年度以前	平成２２年度	平成２３年度以降
A	目標年度の目標達成に向けて順調に進んでいる。	削減目標を達成できた。	計画年度の目標を達成できた。
B	目標年度の目標達成に向けて概ね順調に進んでいる（一部に課題がある。）。	削減目標を概ね達成できた（一部に課題がある。）。	計画年度の目標を概ね達成できた（一部に課題がある。）。
C	目標年度の目標の達成に困難な課題がある。	削減目標の達成に困難な課題がある。	計画年度の目標の達成に困難な課題がある。

備考　評価の欄は、該当するものを〇で囲むこと。

イ　課題と対策

今後も目標達成に向け、個別の排出源対策を検討いたします。

備考　この項の記載は任意であること。ただし、アの評価の欄がＣの場合は、必ず記載すること。

（その三）

工場又は事業場の名称	株式会社　横河システム建築 千葉工場

（２）揮発性有機化合物の排出等の抑制のための対策

（１）の計画年度の削減率を達成するために実施した対策について、自主的取組計画書の別表から該当する記号を選んで記載すること。複数の対策を組み合わせて実施した場合は、全ての対策について記載すること。

対策 1	対策 2	対策 3	対策 4	対策 5	対策 6	対策 7	対策 8	対策 9	対策10
1 1	9 9								

その他（１９，２９，３９，４９，５９，９９）を選んで記載した場合は、対策の内容を次の欄に具体的に記入すること。

対策２について

引き続き接着剤を使用する断熱材仕様から、接着剤を使用しない敷設タイプの断熱材仕様へ、その採用割合を極力増やす。

（その四）

工場又は事業場の名称	株式会社　横河システム建築千葉工場

(3) 自主的取組実績の評価

ア　(1)の計画年度における削減率についての進捗状況及び達成状況の評価

評価	計画年度の属する年度		
	平成２１年度以前	平成２２年度	平成２３年度以降
A	目標年度の目標達成に向けて順調に進んでいる。	削減目標を達成できた。	計画年度の目標を達成できた。
B	目標年度の目標達成に向けて概ね順調に進んでいる（一部に課題がある。）。	削減目標を概ね達成できた（一部に課題がある。）。	計画年度の目標を概ね達成できた（一部に課題がある。）。
C	目標年度の目標の達成に困難な課題がある。	削減目標の達成に困難な課題がある。	計画年度の目標の達成に困難な課題がある。

備考　評価の欄は、該当するものを○で囲むこと。

イ　課題と対策

備考　この項の記載は任意であること。ただし、アの評価の欄がＣの場合は、必ず記載すること。

（その三）

工場又は事業場の名称	日鉄建材株式会社 君津鋼板工場

（２）揮発性有機化合物の排出等の抑制のための対策

（１）の計画年度の削減率を達成するために実施した対策について、自主的取組計画書の別表から該当する記号を選んで記載すること。複数の対策を組み合わせて実施した場合は、全ての対策について記載すること。

対策 1	対策 2	対策 3	対策 4	対策 5	対策 6	対策 7	対策 8	対策 9	対策10
2 1	2 2	3 1	5 6	9 1					

その他（１９，２９，３９，４９，５９，９９）を選んで記載した場合は、対策の内容を次の欄に具体的に記入すること。

（その四）

工場又は事業場の名称	日鉄建材株式会社 君津鋼板工場

(3) 自主的取組実績の評価

ア　(1) の計画年度における削減率についての進捗状況及び達成状況の評価

評価	計画年度の属する年度		
	平成２１年度以前	平成２２年度	平成２３年度以降
A	目標年度の目標達成に向けて順調に進んでいる。	削減目標を達成できた。	計画年度の目標を達成できた。
B	目標年度の目標達成に向けて概ね順調に進んでいる（一部に課題がある。）。	削減目標を概ね達成できた（一部に課題がある。）。	計画年度の目標を概ね達成できた（一部に課題がある。）。
C	目標年度の目標の達成に困難な課題がある。	削減目標の達成に困難な課題がある。	計画年度の目標の達成に困難な課題がある。

備考　評価の欄は、該当するものを○で囲むこと。

イ　課題と対策

脱臭炉設備の効率が最大となるよう定期的なメンテナンスを継続する。

備考　この項の記載は任意であること。ただし、アの評価の欄がＣの場合は、必ず記載すること。

(その三)

工場又は事業場の名称	日本製鉄株式会社 東日本製鉄所　君津地区

(2)揮発性有機化合物の排出等の抑制のための対策
(1)の計画年度の削減率を達成するために実施した対策について、自主的取組計画書の別表から該当する記号を選んで記載すること。複数の対策を組み合わせて実施した場合は、全ての対策について記載すること。

対策 1		対策 2		対策 3		対策 4		対策 5		対策 6		対策 7		対策 8		対策 9		対策10	
2	2	3	1	3	3	3	9	5	4	2	1	2	3	2	9	9	3	4	9

対策11		対策12	
5	1	5	6

その他(19, 29, 39, 49, 59, 99)を選んで記載した場合は、対策の内容を次の欄に具体的に記入すること。

対策4について

VOCを含むガス冷却設備の排気を副生ガス配管に回収しました。

対策8について

洗浄剤を再利用することにより、洗浄剤の廃棄量を削減しました。

対策10について

VOCを含む軽油タンク・蒸留塔の排気を副生ガス配管に回収しました。

（その四）

工場又は事業場の名称	日本製鉄株式会社 東日本製鉄所　君津地区

⑶自主的取組実績の評価

ア　(1)の計画年度における削減率についての進捗状況及び達成状況の評価

評価	計画年度の属する年度		
	2009年度以前	2010年度	2011年度以降
A	目標年度の目標達成に向けて順調に進んでいる。	削減目標を達成できた。	計画年度の目標を達成できた。
B	目標年度の目標達成に向けて概ね順調に進んでいる(一部に課題がある。)。	削減目標を概ね達成できた(一部に課題がある。)。	計画年度の目標を概ね達成できた(一部に課題がある。)。
C	目標年度の目標の達成に困難な課題がある。	削減目標の達成に困難な課題がある。	計画年度の目標の達成に困難な課題がある。

備考　評価の欄は、該当するものを○で囲むこと。

イ　課題と対策

2009年6月にVOC排出量の大半を占める塗装設備にVOC処理設備を新設し、稼動を開始した。その結果、目標を達成することができた。

備考　この項の記載は任意であること。ただし、アの評価の欄がCの場合は、必ず記載すること。

（その三）

工場又は 事業場の名称	富士石油株式会社 袖ケ浦製油所

(2)　揮発性有機化合物の排出等の抑制のための対策

（1）の計画年度の削減率を達成するために実施した対策について、自主的取組計画書の別表から該当する記号を選んで記載すること。複数の対策を組み合わせて実施した場合は、全ての対策について記載すること。

対策 1		対策 2		対策 3		対策 4		対策 5		対策 6		対策 7		対策 8		対策 9		対策10	
4	1	5	2																

その他対策（19、29、39、49、59、99）を記載した場合は、対策の内容を次の欄に具体的に記入すること。

対象油種の充てん出荷施設には平成2年3月までに炭化水素回収施設を付設し、出荷充てん時に排出されるVOCの約90%を回収している。
また固定屋根式の屋外貯蔵タンクに対象油種を貯蔵する必要が生じた場合は、その都度当該タンクを浮屋根式（又は内部浮屋根式）に改造した後に対象油種を導入することでVOCの排出抑制に努めてきている。
したがって、弊所においては既にVOC排出抑制に実施可能な設備対策は全て済ませている。

現時点で具体的な計画があるわけではないが、今後も屋外貯蔵タンクに対象油種の貯蔵をする必要が生じた場合等は、必要な設備対応を完了した後でなければこれを実施しないことでVOC排出抑制に努めていく。

（その四）

工場又は 事業場の名称	富士石油株式会社 袖ケ浦製油所

(3)　自主的取組実績の評価

ア　(1)の計画年度における削減率についての進捗状況及び達成状況の評価

評価	計画年度の属する年度		
	平成21年度以前	平成22年度	平成23年度以降
A	目標年度の目標達成に向けて順調に進んでいる。	削減目標を達成できた。	計画年度の目標を達成できた。
B	目標年度の目標達成に向けて概ね順調に進んでいる（一部に課題がある。）。	削減目標を概ね達成できた（一部に課題がある。）。	計画年度の目標を概ね達成できた（一部に課題がある。）。
C	目標年度の目標の達成に困難な課題がある。	削減目標の達成に困難な課題がある。	計画年度の目標の達成に困難な課題がある。

備考　評価の欄は、該当するものを○で囲むこと。

イ　課題と対策

1)
「環境の保全に関する協定書」（以下、単に「協定」という。）の定めに基づき、対象油種を固定屋根式タンクに貯蔵する必要が生じた場合は、これを浮屋根式（又は内部浮屋根式）に改造後に導入することでVOCの排出抑制に努めている。

2)
平成2年3月に充てん出荷設備に炭化水素回収設備を設置し、出荷充てん時に排出されるVOCの約90%を回収している。当時「協定」の定めでは炭化水素回収設備の運転期間を光化学スモッグ注意報等の発令される4月から10月の間とされていたが、弊所ではVOCのより積極的な回収を図るため当初より年間を通じ回収設備を運転してきている。

もし、炭化水素回収設備が設置されていないとした場合、基準年のVOC排出量は460000kgと試算され、これを基準年の排出量と仮定すると、本実績報告年度の排出量は33%の削減率となる。

備考　この項の記載は任意であること。ただし、アの評価の欄がCの場合は、必ず記載すること。

（その三）

工場又は事業場の名称	旭化成株式会社　製造統括本部川崎製造所千葉工場

（２）揮発性有機化合物の排出等の抑制のための対策

（１）の計画年度の削減率を達成するために実施した対策について、自主的取組計画書の別表から該当する記号を選んで記載すること。複数の対策を組み合わせて実施した場合は、全ての対策について記載すること。

対策 1	対策 2	対策 3	対策 4	対策 5	対策 6	対策 7	対策 8	対策 9	対策10
2 9	5 4	2 1	5 1	3 1					

その他（１９，２９，３９，４９，５９，９９）を選んで記載した場合は、対策の内容を次の欄に具体的に記入すること。

（対策1）原料タンクのブリザー弁の点検等の工程管理を確実に行った。

（その四）

工場又は事業場の名称	旭化成株式会社　製造統括本部川崎製造所千葉工場

(3) 自主的取組実績の評価

ア　(1)の計画年度における削減率についての進捗状況及び達成状況の評価

評価	計画年度の属する年度		
	平成２１年度以前	平成２２年度	平成２３年度以降
A	目標年度の目標達成に向けて順調に進んでいる。	削減目標を達成できた。	計画年度の目標を達成できた。
B	目標年度の目標達成に向けて概ね順調に進んでいる（一部に課題がある。）。	削減目標を概ね達成できた（一部に課題がある。）。	計画年度の目標を概ね達成できた（一部に課題がある。）。
C	目標年度の目標の達成に困難な課題がある。	削減目標の達成に困難な課題がある。	計画年度の目標の達成に困難な課題がある。

備考　評価の欄は、該当するものを○で囲むこと。

イ　課題と対策

備考　この項の記載は任意であること。ただし、アの評価の欄がＣの場合は、必ず記載すること。

（その三）

工場又は事業場の名称	ＰＳジャパン株式会社 千葉工場

（２）揮発性有機化合物の排出等の抑制のための対策

（１）の計画年度の削減率を達成するために実施した対策について、自主的取組計画書の別表から該当する記号を選んで記載すること。複数の対策を組み合わせて実施した場合は、全ての対策について記載すること。

対策 1	対策 2	対策 3	対策 4	対策 5	対策 6	対策 7	対策 8	対策 9	対策10
2 9	3 2	5 3	5 4						

その他（１９，２９，３９，４９，５９，９９）を選んで記載した場合は、対策の内容を次の欄に具体的に記入すること。

対策１について

・原料スチレンタンク温度管理を徹底し、調合工程でのガス発生量の低減に務めた。

（その四）

工場又は事業場の名称	ＰＳジャパン株式会社 千葉工場

(3) 自主的取組実績の評価

ア　(1)の計画年度における削減率についての進捗状況及び達成状況の評価

評価	計画年度の属する年度		
	平成２１年度以前	平成２２年度	平成２３年度以降
A	目標年度の目標達成に向けて順調に進んでいる。	削減目標を達成できた。	計画年度の目標を達成できた。
B	目標年度の目標達成に向けて概ね順調に進んでいる（一部に課題がある。）。	削減目標を概ね達成できた（一部に課題がある。）。	計画年度の目標を概ね達成できた（一部に課題がある。）。
C	目標年度の目標の達成に困難な課題がある。	削減目標の達成に困難な課題がある。	計画年度の目標の達成に困難な課題がある。

備考　評価の欄は、該当するものを○で囲むこと。

イ　課題と対策

備考　この項の記載は任意であること。ただし、アの評価の欄がＣの場合は、必ず記載すること。

(その三)

工場又は事業場の名称	東邦化学工業株式会社 千葉工場

（２）揮発性有機化合物の排出等の抑制のための対策

（１）の計画年度の削減率を達成するために実施した対策について、自主的取組計画書の別表から該当する記号を選んで記載すること。複数の対策を組み合わせて実施した場合は、全ての対策について記載すること。

対策 1	対策 2	対策 3	対策 4	対策 5	対策 6	対策 7	対策 8	対策 9	対策10
2 1	2 3	3 2	5 2	5 3	9 1				

その他（１９，２９，３９，４９，５９，９９）を選んで記載した場合は、対策の内容を次の欄に具体的に記入すること。

（その四）

工場又は事業場の名称	東邦化学工業株式会社 千葉工場

(3) 自主的取組実績の評価

ア　(1)の計画年度における削減率についての進捗状況及び達成状況の評価

評価	計画年度の属する年度		
	平成２１年度以前	平成２２年度	平成２３年度以降
A	目標年度の目標達成に向けて順調に進んでいる。	削減目標を達成できた。	計画年度の目標を達成できた。
B	目標年度の目標達成に向けて概ね順調に進んでいる（一部に課題がある。）。	削減目標を概ね達成できた（一部に課題がある。）。	計画年度の目標を概ね達成できた（一部に課題がある。）。
C	目標年度の目標の達成に困難な課題がある。	削減目標の達成に困難な課題がある。	計画年度の目標の達成に困難な課題がある。

備考　評価の欄は、該当するものを○で囲むこと。

イ　課題と対策

基準年(平成１２年)以降、設備増設により生産品目が多様化して、ＶＯＣ原料の使用量が大幅に増加している。コンデンサーの増強、冷却装置の増強等を実施しているが基準年を下回ることは困難である。

備考　この項の記載は任意であること。ただし、アの評価の欄がＣの場合は、必ず記載すること。

２位を四捨五入して得た数値を記載すること。）。

５　計画年度の削減率の実績値は、次の式により算出される数値を有効数字２桁で記載すること。

｛（基準年度の排出等の量－計画年度の排出等の量）／基準年度の排出等の量｝×１００

（その三）

工場又は事業場の名称	株式会社ＡＤＥＫＡ 千葉工場

（２）揮発性有機化合物の排出等の抑制のための対策

（１）の計画年度の削減率を達成するために実施した対策について、自主的取組計画書の別表から該当する記号を選んで記載すること。複数の対策を組み合わせて実施した場合は、全ての対策について記載すること。

対策 1	対策 2	対策 3	対策 4	対策 5	対策 6	対策 7	対策 8	対策 9	対策10
5　2	9　1								

その他（１９，２９，３９，４９，５９，９９）を選んで記載した場合は、対策の内容を次の欄に具体的に記入すること。

（その四）

工場又は事業場の名称	株式会社ＡＤＥＫＡ 千葉工場

(3) 自主的取組実績の評価

ア　(1) の計画年度における削減率についての進捗状況及び達成状況の評価

評価	計画年度の属する年度		
	平成２１年度以前	平成２２年度	平成２３年度以降
A	目標年度の目標達成に向けて順調に進んでいる。	削減目標を達成できた。	計画年度の目標を達成できた。
B	目標年度の目標達成に向けて概ね順調に進んでいる（一部に課題がある。）。	削減目標を概ね達成できた（一部に課題がある。）。	計画年度の目標を概ね達成できた（一部に課題がある。）。
C	目標年度の目標の達成に困難な課題がある。	削減目標の達成に困難な課題がある。	計画年度の目標の達成に困難な課題がある。

備考　評価の欄は、該当するものを○で囲むこと。

イ　課題と対策

使用量計画値から実績使用量は減少しているが、1,2-ジクロロエタン等の使用する製品の生産量は多く排出量は目標に届かなかった。

本年度も生産量増加の見込みであり、削減検討を進めている。

備考　この項の記載は任意であること。ただし、アの評価の欄がＣの場合は、必ず記載すること。

（その三）

工場又は事業場の名称	スーパーレジンクラフト株式会社 千葉工場

（２）揮発性有機化合物の排出等の抑制のための対策

（１）の計画年度の削減率を達成するために実施した対策について、自主的取組計画書の別表から該当する記号を選んで記載すること。複数の対策を組み合わせて実施した場合は、全ての対策について記載すること。

対策 1	対策 2	対策 3	対策 4	対策 5	対策 6	対策 7	対策 8	対策 9	対策10
2 1	2 2	9 1	9 2						

その他（１９，２９，３９，４９，５９，９９）を選んで記載した場合は、対策の内容を次の欄に具体的に記入すること。

(その四)

工場又は事業場の名称	スーパーレジンクラフト株式会社 千葉工場

(3) 自主的取組実績の評価

ア　(1)の計画年度における削減率についての進捗状況及び達成状況の評価

評価	計画年度の属する年度		
	平成22年度以前	平成31年度	令和3年度以降
Ⓐ	目標年度の目標達成に向けて順調に進んでいる。	削減目標を達成できた。	計画年度の目標を達成できた。
B	目標年度の目標達成に向けて概ね順調に進んでいる（一部に課題がある。）。	削減目標を概ね達成できた（一部に課題がある。）。	計画年度の目標を概ね達成できた（一部に課題がある。）。
C	目標年度の目標の達成に困難な課題がある。	削減目標の達成に困難な課題がある。	計画年度の目標の達成に困難な課題がある。

備考　評価の欄は、該当するものを○で囲むこと。

イ　課題と対策

備考　この項の記載は任意であること。ただし、アの評価の欄がCの場合は、必ず記載すること。